

しあわせの空

本校教育目標

第6号

豊かな心と生きて働く力を身に付けた子どもの育成



令和2年7月3日
熊本市立田迎小学校
校長 松本 公一

○次世代の学校

自宅の本棚に眠っていた35年前の学級通信を思い出に浸りながら読み返していました。内容も懐かしかったのですが、当時はヤスリ版と鉄筆を使って製版する「ガリ版」の終わり頃で、新しくボールペン原紙が登場、さらにファックス原紙と次々に新しい印刷技術が現場に入ってきたことも懐かしく思い出しました。それでも1枚の印刷物を作るのに相当な時間がかかっていた。

今では手書きや製版をすることなく、パソコンで入力した文字や写真やイラストは、瞬時にプリンタで印刷できるようになりました。当時と比べるとあっという間です。印刷物に時間がかからなくなった分、仕事に余裕ができたかと言えば、その逆で、時間外勤務時間が過労死ラインをこえる教職員が、小学校教諭で33.5%、中学校教諭で57.7%（文科省調査）という現状です。学校がブラック企業だと言われる状況になってしまった原因を、ある大学教授は次のように分析しています。

昭和に比べて授業以外の仕事量は増えた上に、少子化の影響で教員数が激減している。それにも関わらず、学校は昭和のまま何も変わらず学校完結型（すべて学校で背負い込んで解決しようとする）であることに原因がある。

文科省は学校における働き方改革に係る緊急対策として、①業務の役割分担・適正化②時間外勤務の抑制のための必要な措置③教職員の意識改革④環境整備を掲げ、「次世代の学校づくり」のために動き出しています。

本市では改革の一つとして、毎年8月13日～15日を学校閉庁日とし、職員の勤務、行事、部活動、研修等をしない日としています。この3日間は教育委員会で対応いたします。さらに年末・年始も学校の裁量で閉庁日を設定することができるようになりました。

○一日一善

1980年代「一日一善！」と白髪の老人と子どもたちが呼びかけているテレビコマーシャルがありました。一日一つでいいから善い事をしましょうという啓発活動だったと思いますが、コマーシャルの影響は大きく、各教室でも今日のめあては一日一善と決める学級が多かったように思います。気持ちよく挨拶をする、ありがとうと言う、悪口を言わない、人のいい所を見つけて伝える、にっこり笑う、困っている友達がいたら助ける、ゴミを拾う等、意識して生活していた時期がありました。

辞書には「一日に一つの善行をして、それを積み重ねるようにしなさいという呼びかけ」とあります。続けることによってそれが当たり前になることが大切だと思うのですが、この啓発活動も一種のブームだったのかもしれませんが。今ではあまり聞かれない言葉となっているようです。田迎の子どもたちが一日一善を心がけてくれると、一日に457もの善行が生まれ、全校児童から善行児童へと変わっていくと思います。流行と言えば、慎吾ママのおはロック「おっはー」は、2000年の新語・流行語大賞の年間大賞を受賞するなど、学校でも朝の挨拶がよく飛び交っていました。

ブームは去っても、善行や挨拶が日常生活に意識付けられることを願っています。